第 2017-13 号

恵みと真理のニュース

2017 年 3 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

相変わらず主を愛し主の御言葉に従順して生きるのが真で福ある人生であることを悟らせ、本日も神霊な福を与えてくださって享受するように導いてくださる神様の恵みを賛美します

相変わらず賛美を受ける私の主イエスキリストの神様に感謝と賛美を捧げます。私と家族を救ってくださって永遠な命を得って日々神様を愛し仕える喜び溢れる幸せな人生を生きるようにしてくださいました。祖母が家で仏像の前に偶像崇拝をする家庭で生まれまし育てられました。教会が何をするところか何も知らなくて小学校の後ろにある教会で伝道され初めて教会に行けました。イエス様がどなたなのか知らなかったが家にいるより教会に行ったら心が楽になり、親を愛を受けなく育てられたので教会で与えてくれる関心が好きで教会にいるのが好きでした。
中学生の時にソウルある教会に通っていた方がその教会で招待して行ってみたら私の心に合う聖霊に満たされた教会でした。その時から私は熱心に神様に礼拝をして祈りもしました。特に高校部の修練会で大きい恵みを受けて生きておられる神様を会うようになって楽しい心でもっと熱心に信仰生活をしました。
　青年になって今の旦那に出会って結婚をするようになりました。しかし、当時旦那の家庭はカトリック教を信じていて結婚式は聖堂で行わなければならないとしました。結婚式を行った後、両親をついて聖堂に通い始めました。私はキリスト教とカトリック教と同じように神様を信じると思ったのと考えましたが、行ってみたら違いました。ミサに参席してみたら心が平安にならなくて神様の御言葉に切なくてどんな喜びもなかったです。また、マリアに祈って祭祀を捧げるのを見たらカトリック聖堂に行くのをもうやめたくなりました。しかし、両親に聖堂を行かないですと話をするには私が弱かったです。仕方なく聖堂を続けて通って洗礼を受ける一週間前に姑と大きく口争いをして両親と離れて住みました。今考えてみたらそれも神様の恵みだったのを悟られ感謝します。
一時期神様を離れた生活をして新たに決心して"これから教会に通い神様を信じ仕えます。子供達も神様の恵みと愛の中で育てらるのを願うと旦那に話をしました。私が思った強い決心を知った旦那は両親を秘かに教会を通いなさいとしました。そのときがアンサンで住んでいる時で様々な教会を探し礼拝に参席してみたが、心に喜びと平安がなかったです。礼拝を捧げて家に帰って来ても御言葉の恵みが切なくてラジオをつけ放送説教を聴き、神様の導きを願いながら祈りました。ある日は聖書を黙想する中でヨハネの福音書6章63節の御言葉が私の心を響きました。" 命を与えるのは霊である。肉は何の役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、命である。その時からただ神様の御言葉の通り教え伝える御言葉が溢れる教会を探しました。そうするうちに共に働いた先輩が特に伝道期間だと言われ教会に一緒に行こうと誘いました。先輩は恵みと真理教会の区域長でした。ちょうど教会を探していたので私は喜び心で先輩をついて行きました。初めて礼拝を捧げる中で私の心の中で言葉で表現できないほどの喜びと感謝で充満でした。"こんな教会もあるのだ。心から"ハレルヤ！" と叫びました。
高校生の時、神様に切に祈ったことがふっと思いだしました。"神様、もしこれから私が神様のところを離れたら神様が最後まで私の手を掴んでください。" と祈りました。真でその祈りを聴いてくださってその手を離さなくて私を導いてくださいました。当会長の牧師の説教を聴くたびに生きておられる神様の声で聞こえ心に喜びと平安でいっぱいでした。
その日から子供を連れて教会で礼拝中心の信仰生活をして神様がそんな私に溢れる恵みをくださいました。賛美し御言葉を聴き祈りをする時に感謝の涙が出ました。私のような罪人を救ってくださった神様に感謝でした。神様は説教を聴き聖書を読むたびに悟らせて甘くて奥深い御言葉になってくださり恵みと能力を体験してくださいました。御言葉と聖霊に満たされる中で生活しながら区域長のカバンを持って奉仕し伝道する方々がうらやましくて伝道師にどうしたら私も区域長になるのかと聞きました。伝道師は私のため祝福の祈りをしてくださいました、まもなく、区域長になって誇らかに区域長のカバンを持つようになりました。足りないのが多かった私ですが、神様が熱心さと力を下さって喜びで従順し、今は首区域長の職分で教会を仕えています。
　私は旦那と両親に悪く思ったことを悔い改めて愛と憐れむ心で祈り始めました。神様は私の心にあった苦い根をなくしてくださり、私を変化してくださって旦那と両親の救いのため切に祈るように導てくださいました。私の心に平安と希望と信仰にもっていたら自分も驚くほど性品が変化され柔らかく旦那をもっと愛するようになりました。そして、旦那の救いのため30日間祈って夜の断食祈りが終わったその主日から旦那が教会に行ってイエス様を救い主として受けいれました。ハレルヤ！以後、旦那は聖歌隊で奉仕するなど熱心に信仰生活をして案手執事になりました。神様が旦那に与えてくださった恵みと愛に感謝します。
私の二人の娘達も聖歌隊で奉仕しながら神様がくださった信仰と希望とビジョンを持って熱心に勉強をしています。神様は私が理解できない方法で考えなかった方法で私の家庭に福を与えてくださって神様の愛と権能を悟らせもっと信仰と希望に充満になって生きるようにしてくださいます。旦那にも誠実さと共に知恵と能力をしてくださり、私の家庭に続けて与えてくださいました。子供たちが思春期になって大変なことがありましたが、その時も御言葉を掴んで神様を仰ぎながら祈ると忍耐と希望の実りを見せてくださり、子供達にも強い信仰をくださいました。
　神様を知らない時は死にたい考えをして生きるのが大変でした。ところが、神様を信じ愛し仕え始めた後、神様は言葉で表現できないほど驚くな恵みで私を掴んでくださり、いつも勝利するようにしてくださいました。豊かな救いの恵みを神様が与えてくださるので賛美を捧げます。神様の恵みと愛と働かれる権能を賛美します。
私の力では主の事をすることが出来なくてただ、神様がくださる信仰と能力と熱心さで出来るのを知っています。神様を完全に信頼して相変わらず愛し御言葉に従順して任された職分に忠誠して熱心に福音を伝えるのが一番福ある人生であることを知らせてくださいました。今日も私に福を享受するように導いてくださる神様に感謝と賛美を捧げます。"愛します。神様、私の父"

［信仰コラム］　いと高き神のもとに身を寄せて隠れ　全能の神の陰に宿る人

" いと高き神のもとに身を寄せて隠れ／全能の神の陰に宿る人よ主に申し上げよ／「わたしの避けどころ... " （詩編 91:1～13）

神様の命令に逆らって犯罪したアダムとエバがエデンから放逐された以降に人は生まれる瞬間から危険に露出され生存が脅かされるようになりました。人々は生存と生活の安全のために共同体を形成して法と制度を作ります。治安と国防を担当する組織を置いて各種の災難に備える組織と機構も設置します。しかし、人が備えて作ったことだけには十分ではありません。人間の力と知恵では対処できなく解決できない状況と問題が多くあります。このような人生達に聖書は幸いで喜びのある消息を提供しています。神様の助けを受ける道に対する消息です。本文のお言葉がそのような喜ばしい知らせです。
本文の 1 節には " いと高き神のもとに身を寄せて隠れ／全能の神の陰に宿る人よ " と記録されています。
いと高きとは ' 最も高い ' ' この上なく尊い ' という意味で神様を指して ' いと高き神 ' と呼びます。" 神様は万有より優れておられ卓越な方である " ということを強調する時に使う言葉です。' いと高き神のもとに身を寄せて隠れ／全能の神の陰に宿る人 ' とはイエスキリストを信じて頼りまた、イエスキリストを主として仕える人を意味します。' 陰 ' は保護と安息を意味します。全能者の陰は最上の安全を保障する宿りであり、永遠な安全を保障する宿りです。イエスキリストの中に宿る者は全能な方の保護と助けを受けて最上の安全を保障されます。
本文の 2 節には " 主に申し上げよ／「わたしの避けどころ、砦／わたしの神、依り頼む方」と " と記録されています。
詩編の記者は本文でいと高き神様と自分の関係を言及しました。第一、" わたしの避けどころ " と述べました。神様はご自分に避ける者のために避けどころになってくださいます。第二、" 砦 " だとしました。神様は完全な砦でございます。キリストイエスの中にいるとサタンが手を伸ばすことができず、地獄の権勢が及ぶことができません。第三、" わたしの神、依り頼む方 " と記録されています。神様と自分の関係を確信に満ちている音声で述べると神様が喜ばれて福を加えてくださいます。神様はご自分に頼る人を掴んでくださり、抱いてくださいます。
本文の 3 節から 13 節までは次のように記録されました。
" 神はあなたを救い出してくださる／仕掛けられた罠から、陥れる言葉から。神は羽をもってあなたを覆い／翼の下にかばってくださる。神のまことは大盾、小盾。夜、脅かすものをも／昼、飛んで来る矢をも、恐れることはない。暗黒の中を行く疫病も／真昼に襲う病魔もあなたの傍らに一千の人／あなたの右に一万の人が倒れるときすら／あなたを襲うことはない。あなたの目が、それを眺めるのみ。神に逆らう者の受ける報いを見ているのみ。あなたは主を避けどころとし／いと高き神を宿るところとした。あなたには災難もふりかかることがなく／天幕には疫病も触れることがない。主はあなたのために、御使いに命じて／あなたの道のどこにおいても守らせてくださる。彼らはあなたをその手にのせて運び／足が石に当たらないように守る。あなたは獅子と毒蛇を踏みにじり／獅子の子と大蛇を踏んで行く。"
いと高き神に身を寄せて、わたしの避けどころ、砦、わたしの神、依り頼む方だと告白する者には特別な保護と安全が保障されています。神様は私達が経験する危険から様々な方法で保護してくださり安全にしてくださいます。一、危険を未然に避けることができるように助けてくださいます。二、危険な事に遭っても害を受けないように保護してくださいます。三、危険と苦痛、損失が発展のために跳躍台になるように保護して助けてくださいます。四、神様の助けを受けてサタンの詭計と権勢も充分に制御して勝つことができるようにしてくださいます。
聖徒達はいかなる場合でも究極的には失ったことがありません。魂が保護を受けて安全を得るようになるので敗北や破滅とはありません。従って、最上の安全は危険がない所ではなくいと高き神のもとにすなわち、イエスキリストの中にあります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム ‘緑の牧場、清い川’ 本の語り中」

悲しんでいる人

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

イエス様がおっしゃるのを “悲しんでいる人たちは、さいわいである、彼らは慰められるであろう。” としました。 悲しんでいる者がさいわいがあるというお話です。 “悲しんでいる人はさいわいがある。” このお話はすべての種類の悲しみをすべて含むのではないです。どんな種類の悲しむは精神と肉体を損して疲弊させます。 意欲の喪失や自殺に至らせることもできます。 だから悲しんでいる人は誰もすべて慰労を受けるようになるのではないです。イエス様がさいわいがあるとなさった悲しむと言うのは健全な悲しむ、敬虔な悲しむ、信仰的な性格の悲しむを言います。 神様に身近に進ませる悲しむを言います。 人がどんな大きい悲しみに処するようになる事によって内面的な世界、霊的な世界に対する目が開かれるようになって生きていらっしゃった主神様に進むようになったらその悲しみをしのぐ神様の慰労を得るようになります。
今日はどんな悲しんでいる者がさいわいがありどんな慰労を受けるようになるかを四つで分けてよく見ます。

第一は、罪によって悲しんでいる人はさいわいである

罪に関して絶望的な人々がいます。 一つは、自分は神様に対して罪のないと主張する人で他の一つは、自分の努力で罪の問題を解決することができると思う人です。 もし彼らが一生をそんな主張と考えどおり生きて行ったら終局には地獄に入るようになってしまいます。 自分は罪人であり、自分の努力では罪の問題を解決することができないという事実を認めてこれによって悲しんでいる人がいます。 こんな人には希望があります。 イエス様が宣布するのを “「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」。”（マルコによる福音書, 1:15）しました。 救いに至らせる悔い改めとは罪によって悲しんで痛くて福音を信じることを意味します。 福音の核心は私たちの罪をあがないしたイエス様です。
カリオテユダは大祭司長から銀三十を受けてイエス様を売ってしまいました。 彼はイエス様がユダの最高議会であるサンヘドリン公会で死刑宣告を受けることを見て自分の過ちを悔やみました。 彼は銀を聖殿に投げてしまって退いて首をつりました。 彼は自分がつけた罪によって自分を責めたがイエス様から赦しを受けるのを切に望まなかったです。 彼は首をつったし地獄に入るようになってしまいました。 罪によって悲しんでいることだけで神様がくださる慰労を受けるようになるのではないです。罪によって悲しんでいる人はイエス様に進まなければなりません。
ペテロはイエス様が残酷に審問を受ける現場にありました。 彼がイエス様の第子を人々が見知ると彼はイエス様が分からないと三度も否認しました。
その時ニワトリ泣く音が聞こえました。 ペテロは “ニワトリが 泣く前にあなたが三度 私を否認しよう。” しました神様のお話が思い出して外に出て泣きわめきました。
その後 ある日、ペテロと弟子が魚獵しに夜の海に出たが何もつかまらなかったです。 日が明るく時に復活したイエス様が海辺へいらっしゃいました。 イエス様がおっしゃる所に網を下げると魚がたくさんつかまりました。 この時ヨハネがペテロに言うのを “神様です。” したらペテロが海に跳びこんで先にイエス様の位に行きました。 これはイエス様に犯した罪に対して悲しんでいる心があったからで赦しを受けるのを願ったからです。 イエス様はペテロに “あなたが私を愛するのか?” という質問を三度もしました。 そして “はい、私が主を愛するのを主が分かりました。” という告白を三度もするように機会をくださいました。イエス様はペテロの返事をきいて “私の羊を飼いなさい。” その信任するお話を三度もしました。イエス様はペテロを赦しました。 そして聖徒の面倒を見る大きい使命を任せてくださいました。 悲しんで痛かったペテロは言えないほど慰労を受けました。
イエス様が十字架にかけた時、左右の方に十字架が立てられて凶悪な強盗がつけられました。その中に一りがイエス様をぼうとくすると他の人が彼を叱って言うのを “お互は自分のやった事のむくいを受けているのだから、こうなったのは当然だ。しかし、このかたは何も悪いことをしたのではない」。” としました。 この人は自分が犯した罪によって悲しんでいる心を持つようになったのです。 彼はイエス様を向けて訴えるのを “そして言った、「イエスよ、あなたが御国の権威をもっておいでになる時には、わたしを思い出してください」。” しました。 イエス様がおっしゃいました。 “イエスは言われた、「よく言っておくが、あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう」”（ルカによる福音書 23:43). 凶悪な強盗でも自分が罪人というのを悟って悲しんでいる心でイエス様の慰労を切に望んだらイエス様は彼を救いしてくださいました。 イエス様を自分の救世主に迎接しない人は罪によって悲しんでいる心を持って悔い改めなければなりません。 イエス様を救世主で迎接しなければなりません。 そんなにすれば直ちに大きくて驚くべきな慰労を受けるようになります。 救いを得るようになります。

二番目は、聖徒らしく暮すために悲しんでいる人はさいわいである

イエス様を迎接して救いもらった人を聖徒と呼びます。 聖徒になった以後には悲しんで痛い事がないことでしょうか? そうではないです。ローマ人への手紙 7 章に見ると使徒パウロが悲しんで痛くて歎息した告白があります。 “すなわち、わたしは、内なる人としては神の律法を喜んでいるが、わたしの肢体には別の律法があって、わたしの心の法則に対して戦いをいどみ、そして、肢体に存在する罪の法則の中に、わたしをとりこにしているのを見る。わたしは、なんというみじめな人間なのだろう。だれが、この死のからだから、わたしを救ってくれるだろうか。”（ローマ人への手紙 7:22～24). 使徒パウロのように信仰が深くなるほど霊的な感受性がもっと鋭敏になって悲しんで痛くなるのです。 救いをもらうための悲しむではなく聖徒らしく暮すための悲しむです。 神様が嬉しくできない事による悲しみです。
このような悲しみをすれば神様の慰労が臨むようになります。 その上では聖霊の実を結ばせてくださるのです 御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制であって、この実が結ぶようになります。

三番目は、自分の弱さをよって悲しんでいる人はさいわいである

神様は人にさいわいをくださる前に先にその人が自分の弱さを切実に悟って悲しんでいる心を持つようになさいます。 このために患難を経験するようになさいます。自分の不足と弱さによって悲しんでいる人は神様を頼るようになります。 神様の助け心を求めるようになります。このような人は神様の慰労を体験するようになるでしょう。 その上では神様の権能が臨むようになります。 使徒パウロの告白は非常に意味深長です。 彼の肉体には活動に差し障るものなどがあったが彼はこれを肉体の刺と呼びました。 このような肉体の刺をとり除いてくれと神様に三度を切に求めました。
神様が答えるのを “「わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる」。それだから、キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう。 だから、わたしはキリストのためならば、弱さと、侮辱と、危機と、迫害と、行き詰まりとに甘んじよう。なぜなら、わたしが弱い時にこそ、わたしは強いからである。”（コリント人への第二の手紙, 12:9,10）しました。 険しくて悪い世を生きながら私たちは自分の弱さが分かって悲しんでいる心を持って神様に訴えなければなりません。 福音を私はと主の仕事を行う時自分の弱さをよって悲しんでいる心を持って神様を深く頼らなければなりません。 そんなにすれば神様の慰労が臨むでしょう。 実在的な神様の助けることと能力で慰労が臨むでしょう。

四番目は、隣りと同胞と国のために悲しんでいる人はさいわいである

隣りがよくできるように願う人は困境に処した隣りを向けて憐愍して悲しんでいる心があります。 聖徒は救いをもらうことができなかった人々を見る時に可愛想に思って悲しんでいる心を持たなければなりません。 イエス様を信じない親、兄弟、夫、妻、お子さん、隣り、同胞そしてすべての族属が福音をきいて信じて救いをもらうのを願って悲しんで痛くなければなりません。 偶像を仕える人々、俗事に心を奪われて福音を無視する人々、滅亡の道に行っている幾多の人々によって悲しんでいる人は熱心に祈りながら伝道するようになります。 そして自分が伝道した人が悔い改めてイエス様を迎接することを見る時に神様がくださる慰労を受けるようになるでしょう。 そして将来神様がくださる称賛と賞という慰労を受けるようになるでしょう。 エレミヤ予言者は同族と国のために悲しんで痛くて涙を流しました。 国が危機に直面してもこれを悟ることができない人々によって悲しんで痛かったです。使徒パウロも自分の同族と国のために悲しんでいる心で神様に切に求めました。

“悲しんでいる人たちは、さいわいである、彼らは慰められるであろう。” 愛する皆さんの心には敬虔で崇高な悲しみが常にあって神様がくださる実在的な慰労をいつも体験するように願いします。